

小学校の体育授業における教師や仲間の言葉がけと 運動有能感との関連

梶尾 徹・橋爪 和夫

小学校の体育授業における教師や仲間の言葉がけと運動有能感との関連

梶尾 徹*・橋爪 和夫

Relationship of Word of Encouragement from Teachers and Classmates with Exercise Self-efficacy in Elementary School Physical Classes

Tohru KAJIO, Kazuo HASHIZUME

摘要

教師や仲間からの言葉がけと運動有能感との関連について調査した。子どもにとって「運動が楽しい」という授業を行うための教師や仲間からの言葉がけを、「成功時における賞賛」「失敗時における励まし」「技術的助言」「個人内の伸びの指摘」の4つのカテゴリーに分類した。それらの言葉を受けた「経験」やそれらの言葉への「期待」が運動有能感の高い子どもや低い子どもでは、差があるのかを調査した。その結果、教師や仲間から多くの言葉をかけられている子どもほど、運動有能感が高く、さらに言葉がけへの高い期待感を有していることが明らかとなった。子どもの運動有能感を高めるには、まずは、教師や仲間が、賞賛したり、励ましたり、個人内の伸びを指摘したりして、肯定的な言葉がけを多くかけることが大事であることが示唆された。

キーワード：体育授業、言葉がけ、運動有能感

Keywords：physical education class, word of encouragement, exercise self-efficacy

I はじめに

2008年に告示された新学習指導要領において、体育科の目標として、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」ということが示された（文部科学省，2008）。運動を生涯にわたって継続的に行うには、「運動することが楽しいから参加する」というように、運動に内発的に動機づけられていることが重要である。内発的動機づけについて細田・杉原（1999）は「有能さの認知が低いと、内発的動機づけがより低くなる」ことを明らかにし、「体育の授業場面での生徒への動機づけには、有能さの認知の高低が大きく影響している」と述べている。またWhite（1957）は有能さと同じ意味で「有能感」を「有機体がその環境と効果的に相互作用する能力」と定義し、「子どもが内発的に動機づけられれば動機づけられるほど、子どもの有能感は大きくなる」と述べている。岡澤（1996）は運動場面における自信として「運動有能感」を提唱している。運動有能感は、「自分是可以する」という身体的有能さの認知、「努力すればできる」という統制感、「教師や仲間から受け入れられている」という受容感の3つの因子から構成されている。

運動有能感是指導上の工夫によって高まるとされている。指導の工夫には、題材の工夫やルール工夫など、様々なものがあるが、どの教材であっても大事なことで

して教師の言葉がけが考えられる。これまでに運動有能感と教師の言葉がけとの関係については、小畑・岡澤（2003）が検証し、「成功場面における賞賛」や、「うまくなっている、進歩している」といった「個人内の伸び」を自覚させるフィードバックを多く与えることによって運動有能感の向上に影響を及ぼすことを明らかにした。高橋（2000）は、授業評価と教師行動の関係について研究し、子どもから評価が高い授業の教師行動の特徴は「『技能の肯定的フィードバック（賞賛）』『運動技能の矯正助言』『励まし』が多い」ことを明らかにした。運動有能感を高め、高い授業評価を受ける体育の授業中の教師や仲間の言葉がけのカテゴリーとして、小畑・岡澤らによる「賞賛」「個人内の伸びの指摘」、高橋による「運動技能の矯正助言」「励まし」という4つが考えられる。

そこで、本研究では、「賞賛」「励まし」「個人内の伸び」「技術的な指導」といった、子どもたちがかけられて前向きに捉えられるような言葉と運動有能感との関係を明らかにすることを目的とした。

II 研究方法

1 調査対象

対象者は富山県T小学校の第1学年から第6学年の全

* 立山町立立山中央小学校

児童607名であった（表1）。調査は平成22年11月に行った。一人の調査員（教師）が全ての子どもに対して説明して、回答を得た。尚、調査に際して学校長の許可を得て、学級担任の立ち会いの下で行った。担任と子どもに、調査の趣旨をわかりやすく説明し、誰にも不利益が生じないことを十分に理解させた上で調査した。無記名で学年単位で回収した。したがって、RAWデータから個人や学級が特定されることは回避された。

2 調査内容

1) 運動有能感得点

岡澤ら（1996）によって作成された低学年・高学年用運動有能感測定尺度（3因子各4項目、全12項目）を用いて運動有能感を測定した。（資料1）

「よくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの5段階による評定を求めた。合計得点は12点～60点に分布する。本研究では、子どもの運動有能感得点から3等分して上中下とし、上位群（有能感の高い群）と下位群（有能感の低い群）に分類し、運動有能感の比較を行った。

2) 言葉がけ「経験得点」

体育授業において、先生や仲間からかけられる言葉の内容（どんな言葉）や場面（どんな時に）が運動有能感とどのような関連性があるかを検討した。前述した4つのカテゴリーの言葉がけの内容を示した質問を提示し、「よく言われる」「たまに言われる」「言われない」の3段階評定で回答を求めた。合計得点は0点～8点に分布する。本研究では、言葉がけ「経験得点」を2等分して上下とし、上位群（言葉が多くかけられた経験を有する群）と下位群（言葉をかけられた経験が少ない群）とした。（資料2）

3) 言葉がけ「期待得点」

体育授業において、先生や仲間から「どんな時に」「どんな言葉」をかけられたいと期待しているかを明らかにするため、言葉がけ「経験得点」調査と同じく4つのカテゴリーの言葉がけの内容を示した質問を提示し、「すごく言われたい」「少し言われたい」「あまり言われたくない」の3段階評定で回答を求めた。合計得点は0点～8点に分布する。（資料2）

3 統計処理

運動有能感と言葉がけの4つのカテゴリーの関連性を解析するために、有能感得点を従属変数、4つのカテゴリーの言葉がけ経験得点を独立変数として、ステップワイズ法による重回帰分析を行った。運動有能感の上位群・下位群と言葉がけの経験・期待との関連性を検討するために、カイ2乗検定を用いた。統計処理は全てSPSS19を用い、統計的危険率は5%未満とした。

III 結果

表1は、学年別・男女別の運動有能感得点を示したものである。多重比較の結果、1年生はそれ以外の学年の運動有能感と、男女ともに有意差が認められた。しかしながら、2年生以上の学年では運動有能感で有意差が認められなかった。また、いずれの学年においても、男女間に運動有能感に有意差は認められなかった。

表1 学年別・男女別の運動有能感得点

学年	運動有能感得点(点)					
	男子			女子		
	\bar{X}	SD	N	\bar{X}	SD	N
1	53.9	7.0	(50)	53.0	4.9	(45)
2	46.7	8.3	(53)	46.9	7.2	(42)
3	46.9	7.2	(42)	44.7	8.2	(60)
4	45.0	6.6	(54)	42.9	7.0	(51)
5	43.3	8.4	(53)	43.8	8.1	(45)
6	46.9	9.1	(50)	42.9	9.8	(62)

表2は、教師からの言葉がけの「経験得点」と「期待得点」を学年と男女別に示したものである。1～5年生では、男女ともに「経験得点」よりも「期待得点」の方が高かった。6年生の男子だけ、「経験得点」の方が「期待得点」よりも値が高かった。また、男女ともに学年が上がるにつれて、教師への「期待得点」が低くなる傾向にあった。

表2 学年と男女別にみた、教師からの言葉がけの「経験得点」と「期待得点」の平均値

学年	人数	男子				女子			
		経験得点		期待得点		経験得点		期待得点	
		平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD
1	95	4.1	(2.6)	5.8	(2.6)	4.0	(2.0)	6.0	(1.8)
2	95	2.9	(2.3)	4.5	(2.4)	3.3	(2.2)	5.1	(2.2)
3	102	3.1	(1.8)	4.7	(2.0)	3.0	(2.2)	5.1	(2.2)
4	105	2.9	(2.0)	4.1	(1.7)	3.1	(1.6)	4.5	(1.6)
5	98	2.7	(1.8)	3.9	(2.0)	2.6	(1.8)	4.0	(1.7)
6	112	3.4	(1.8)	3.3	(2.0)	3.2	(1.5)	3.4	(1.6)

表3は、教師と仲間からの言葉がけの「経験得点」と「期待得点」を運動有能感の上位・下位群別に示したものである。全ての値において、有能感の上位群が下位群よりも得点が高かった。

表3 有能感得点の上位群と下位群における、教師や仲間からの言葉がけの「経験得点」と「期待得点」

有能感得点	N	教師からの				仲間からの			
		経験		期待		経験		期待	
		\bar{X}	SD	\bar{X}	SD	\bar{X}	SD	\bar{X}	SD
下位群	219	2.5	1.9	3.8	1.9	3.4	1.8	4.4	1.7
上位群	207	4.1	2.1	5.3	2.1	4.6	1.8	5.9	1.7

表4は、教師と仲間からの言葉がけの「経験得点」と「期待得点」を学年別に示したものである。2～6年生では、「教師」よりも「仲間」からの言葉がけ「期待得点」が高かった。1年生だけ、「仲間」よりも「教師」からの「期

期待点」が高かった。また、学年が上がるにつれて、教師や仲間からの言葉かけ「期待得点」が低くなった。

表5は、教師と仲間からの言葉かけにおける「期待得点」を言葉のカテゴリーごとの度数で、運動有能感の上位・下位群別に示したものである。上位群では、全てのカテゴリーにおいて、「すごく言われたい」を選択している子どもが多い。下位群では、「たまに言われたい」を選択している子どもが多く、「言われたくない」を選択している子どもも、上位群の子どもよりも多かった。

表6は、子どもの運動有能感を従属変数として、仲間からの言葉かけ、教師からの言葉かけ、仲間と教師の言葉かけを独立変数とした重回帰分析の結果である。仲間からの言葉かけにおいては、「成功時の賞賛・失敗時における励まし・個人内の伸びの指摘」は説明変数であり、「技術的な助言」は除外された。また、教師からの言葉かけにおいては「個人内の伸びの指摘・失敗時における励まし・成功時の賞賛」が説明変数であり、「技術的な助言」は除外された。仲間と教師からの言葉かけをまと

めると、「仲間からの賞賛」「教師からの指摘」「仲間からの励まし」「仲間からの指摘」「教師からの励まし」が説明変数であり、「教師からの成功時の賞賛・技術的助言」「仲間からの技術的助言」は除外された。

表7は表5の期待度「たまに言われたい」を除いて、有能感の上位・下位群と4つのカテゴリーの「言われたくない」「すごく言われたい」との関連性をカイ二乗検定によって解析した結果である。「仲間からの技術的助言」を除いて、全てのカテゴリーで有能感の上位・下位群と言葉かけの「言われたくない」「すごく言われたい」について関連があった。

教師からの言葉かけ経験得点の下位群の「運動有能感得点」(43.6 ± 8.4 , $N=326$)と上位群の「運動有能感得点」(48.9 ± 7.9 , $N=280$)の間には、統計的に有意差が認められた。また、教師からの言葉かけ経験得点の下位群の「教師からの言葉かけ期待得点」(3.7 ± 1.9 , $N=326$)と上位群の「教師からの言葉かけ期待得点」(5.4 ± 1.9 , $N=280$)の間には、統計的に有意差が認められた。

表4 学年別にみた、教師と仲間からの言葉かけの「経験得点」と「期待得点」の平均値

学年	N	教師からの言葉かけ平均値		P値	仲間からの言葉かけ平均値		P値
		経験(SD)	期待(SD)		経験(SD)	期待(SD)	
1	95	4.1(2.3)	5.9(2.1)	0.001	3.8(2.1)	5.8(1.8)	0.001
2	95	3.1(2.2)	4.7(2.3)	0.001	4.6(1.9)	5.9(1.8)	0.001
3	102	3.0(2.0)	4.9(1.9)	0.001	3.6(1.9)	5.3(1.7)	0.001
4	105	3.0(1.8)	4.3(1.7)	0.001	4.0(1.7)	4.8(1.7)	0.001
5	98	2.6(1.8)	3.9(1.9)	0.001	3.7(1.7)	4.8(1.8)	0.001
6	112	3.3(1.6)	3.3(1.8)	0.776	4.4(1.8)	4.3(1.7)	0.673

表5 有能感得点の上位群と下位群における、教師や仲間からの言葉をカテゴリー別にみた期待度数分布

有能感得点	N	期待度	教師からの言葉かけ				仲間からの言葉かけ			
			賞賛	励まし	指摘	助言	賞賛	励まし	指摘	助言
下位群	219	言われたくない	32	66	45	56	26	34	33	31
		たまに言われたい	139	132	135	113	136	138	136	124
		すごく言われたい	48	21	39	50	57	47	50	64
上位群	207	言われたくない	11	38	21	38	6	19	10	29
		たまに言われたい	79	92	80	91	65	78	80	90
		すごく言われたい	117	77	106	78	137	111	118	89

表6 運動有能感を従属変数とする重回帰分析の結果

		偏回帰係数(B) 標準偏回帰係数(β)		t値
仲間からの言葉かけ	賞賛	2.949	0.217	4.883
	指摘	2.475	0.193	4.574
	励まし	1.999	0.167	4.006
	定数	38.555		56.681
	調整済みR ² 乗=0.207 除外された変数: 仲間からの「助言」			
教師からの言葉かけ	指摘	2.281	0.183	3.792
	励まし	1.704	0.135	3.029
	賞賛	1.819	0.135	2.906
	定数	41.437		71.039
	調整済みR ² 乗=0.133 除外された変数: 教師からの「助言」			
教師と仲間からの言葉かけ	仲間からの「賞賛」	2.766	0.203	4.654
	教師からの「指摘」	1.508	0.121	2.778
	仲間からの「励まし」	1.633	0.136	3.295
	仲間からの「指摘」	1.642	0.128	2.934
	教師からの「励まし」	1.376	0.109	2.643
	定数	37.628	0.694	54.197
	調整済みR ² 乗=0.235 除外された変数: 教師からの「賞賛」、教師からの「助言」、仲間からの「技術」			

表7 有能感の上位群と下位群における、教師や仲間からの言葉かけをカテゴリー別にみた「すごく言われたい」「言われたくない」との出現率の比較

有能感	教師からの言葉かけ							
	賞賛		励まし		指摘		助言	
	言われたくない	すごく言われたい	言われたくない	すごく言われたい	言われたくない	すごく言われたい	言われたくない	すごく言われたい
下位群	32	48	66	21	45	39	56	50
上位群	11	117	38	77	21	106	38	78
	$\chi^2(1, N=208)=29.61, p<.001$		$\chi^2(1, N=202)=38.356, p<.001$		$\chi^2(1, N=211)=32.263, p<.001$		$\chi^2(1, N=222)=9.14, p<.003$	

有能感	仲間からの言葉かけ							
	賞賛		励まし		指摘		助言	
	言われたくない	すごく言われたい	言われたくない	すごく言われたい	言われたくない	すごく言われたい	言われたくない	すごく言われたい
下位群	26	57	34	47	33	50	31	64
上位群	6	137	19	111	10	118	29	89
	$\chi^2(1, N=226)=31.802, p<.001$		$\chi^2(1, N=208)=38.356, p<.001$		$\chi^2(1, N=211)=31.669, p<.001$		$\chi^2(1, N=213)=1.688, p<.221$	

IV 考 察

1) 言葉をかけられた経験と運動有能感

本研究の目的の一つは、運動場面での「成功時における賞賛」「失敗時における励まし」「技術的助言」「個人内の伸びの指摘」の4つのカテゴリーに分けられた言葉を受けた経験と、運動有能感との関係を明らかにすることにあった。子どもの運動有能感は、仲間からの言葉かけにおいては、「成功時の賞賛・失敗時における励まし・個人内の伸びの指摘」との有意な関連性は認められたが、

「技術的な助言」との関連性は認められなかった。また、教師からの言葉かけにおいても「個人内の伸びの指摘・失敗時における励まし・成功時の賞賛」との有意な関連性が認められたが、「技術的な助言」との関連性は認められなかった。仲間と教師からの言葉かけをまとめると、子どもの運動有能感は、仲間からの「成功時の賞賛」の影響が最も大きい一方で、教師からの「成功時の賞賛」や「技術的助言」、仲間からの「技術的助言」との関連性は小さかった。仲間や教師からの「技術的な助言」は、子どもの運動有能感との間に直接的な関係がないことが

示唆された。体育科の学習において、動きや技能を身に付けることは、大事な目標の一つである。シーデントップ（1988）は、「教師が子どもにとって運動の失敗時にばかり反応を繰り返すことで、『誤りに焦点化された雰囲気』が作り出されてしまう。もし1回の矯正的なコメントに対し、4回の肯定的フィードバックを与えたとしたら、その雰囲気はかなり肯定的なものになるであろう」と述べている。しかしながら、肯定的なフィードバックの言葉かけにおいても、技術的な助言は運動有能感と関連性が低いことを承知して行うべきであることが示唆された。

子どもの運動有能感には、教師の「技術的な助言」よりも「成功時の賞賛・失敗時における励まし・個人内の伸びの指摘」の言葉かけを多くすることや、運動の失敗時にばかり「技術的な助言」を行わないということが重要であると考えられる。以上のことから、子どもの運動技術が向上したり、動きができるようになるための教師からの助言の在り方についての課題が示された。

2) 言葉かけへの期待と運動有能感

本研究の2つめの目的は、「運動有能感の高い子どもと低い子どもでは、教師や仲間からの言葉かけに期待することに差異があるかどうか」を明らかにすることであった。有能感の高い子どもと低い子どもでは、教師や仲間からの言葉かけに関する「経験」も「期待」も違っていることが明らかとなった。即ち、運動有能感の高い子どもたちは、言葉かけにおいても一層多くの言葉かけを期待していたが、運動有能感の低い子どもたちは、現状よりは多く言葉かけられることを期待しているものの、運動有能感の高い子どもほど強く期待してはいなかった。

一方で、運動有能感の下位群において教師や仲間からの「成功時の賞賛」「失敗時における励まし」「個人内の伸びの指摘」「技術的な助言」の全てのカテゴリーにおいて「言われたくない」という気持ちを持つ子どもが存在していた。しかも、運動有能感の下位群の子どもは上位群の子どもに比べて「言われたくない」という気持ちを有する子どもの存在が有意に多かった。総務省の調査によれば、学校生活で嫌なことの上位に「運動がにがて」という項目が挙げられている（総務省、1997）。また、三木（2005）は「子どもは、できるようになりたいと思いつつも、どのように動いたらよいのかわからず、『できなくても自分なりに楽しめればいい』と、なかばあきらめているのかもしれない」と述べている。このことから、運動有能感の低い子どもたちは、「運動が苦手だから得意になりたい」という気持ちよりも「運動は苦手だから、どうせできない」という思いを強く持っていることが、言葉かけにもさほど期待していない要因になっていることが考えられる。

一方、これまでに言葉かけられた経験という観点か

ら見ると、教師からの言葉かけ経験得点の下位群の「運動有能感得点」と上位群の「運動有能感得点」の間に有意差が認められ、また、教師からの言葉かけ経験得点の下位群の「教師からの言葉かけ期待得点」と上位群の「教師からの言葉かけ期待得点」の間にも有意差が認められた。運動有能感の下位群は上位群に比べて、言葉かけについての経験が少ないことが示された。このことは、教師から多くの言葉をかけられている子どもほど、運動有能感が高く、さらに言葉かけへの高い期待感を有していることを示している。即ち、運動有能感の低い子どもは、言葉をかけられた喜びを多く味わっていないことが、運動有能感の低さや言葉かけの期待への低さに結びついていることも考えられる。運動有能感の低い子どもには、技術的な助言よりも、賞賛したり、励ましたり、個人内の伸びを指摘したりして、肯定的な言葉かけを多くかけることが大事であることが示唆された。

謝辞

研究を進めるにあたり、T小学校の先生方、児童の皆さんに多大な協力を賜りました。心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 文部科学省, 小学校学習指導要領 (2008), 東京書籍.
- 2) 細田朋美・杉原隆, 体育の授業における特性としての目標志向性と有能さの認知が動機づけに及ぼす影響 (1999) 社団法人日本体育学会, 体育学研究 44 (2), 90-99.
- 3) White, Robert W., "Motivation Reconsidered: The Concept of Competence.", (1957). Psychological Review 66, 297-333.
- 4) 岡澤祥訓, 運動好きと自己有能感 (2003) 体育の科学 vol53 (社) 日本体育学会編集杏林書院, 905-909.
- 5) 高橋健夫・岡澤祥訓・中井隆司・芳本真, 体育授業における教師行動に関する研究 (1991), 体育学研究 36 (3), 193-208.
- 6) 小畑治・岡澤祥訓, 体育授業における賞賛の場づくりが運動有能感に及ぼす影響 (2004), 社団法人日本体育学会, 日本体育学会大会号 (55), 611.
- 7) 岡澤祥訓, 運動有能感を高める評価法に関する研究 (2003), 奈良教育大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要12, 163-167.
- 8) シーデントップ, 体育の教授技術 (1988), 大修館書店, 132.
- 9) 三木四郎, 新しい体育授業の運動学—子どもができる喜びを味わう運動学習に向けて (2005), 明和出版, 50.

(2011年8月29日受付)

(2011年10月25日受理)

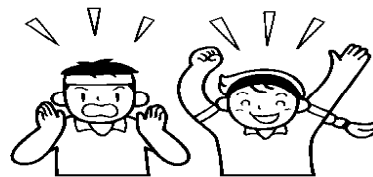
資料 1-① 運動有能感調査（高学年用）

運動や体育に関する調査

○をつけてください

1・2・3・4・5・6 年

男・女



☆ つぎの文を読み、自分はどれにあてはまるか考え、1～5の番号1つに○をつけてください。

	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1 運動能力がすぐれていると思います。	5	4	3	2	1
2 たいていの運動は上手にできます。	5	4	3	2	1
3 練習さえすれば、必ず技術や記録は伸びます。	5	4	3	2	1
4 努力さえすれば、たいていの運動は上手にできると思います。	5	4	3	2	1
5 運動をしている時、先生がはげましたり応援したりしてくれます	5	4	3	2	1
6 運動をしている時、友達がはげましたり応援したりしてくれます	5	4	3	2	1
7 いっしょに運動をしようとさそってくれる友達がいます。	5	4	3	2	1
8 運動の上手な見本として、よく選ばれます。	5	4	3	2	1
9 いっしょに運動する友達がいます。	5	4	3	2	1
10 運動について自信をもっているほうです。	5	4	3	2	1
11 少しむずかしい運動でも、努力すればできると思います。	5	4	3	2	1
12 できない運動でも、あきらめしないで練習すればできるようになると 思います。	5	4	3	2	1

（奈良教育大学 岡澤祥訓 作成）

資料 1-② 運動有能感調査（低学年用）

うんどうにかんする ちょうさ

○をつけてください

1・2・3・4・5・6 年

男・女



☆ つぎのぶんをよみ、じぶんは どれにあてはまるか かんがえ、1～5のばんごう 1つに ○をつけてください。

	すこく おもう	すこし おもう	どちらともいえない	あまり おもわない	まったく おもわない
1 うんどうが よくできるとおもいます。	5	4	3	2	1
2 ほとんどのうんどうは じょうずにできます。	5	4	3	2	1
3 れんしゅうさえすれば、かならずうまくなったり、きろくがのびたりします。	5	4	3	2	1
4 がんばれば、ほとんどのうんどうは じょうずにできるとおもいます。	5	4	3	2	1
5 たいいくをしているとき、せんせいががんばれと おうえんしてくれます。	5	4	3	2	1
6 たいいくをしているとき、なかまががんばれと おうえんしてくれます。	5	4	3	2	1
7 たいいくのじかん、いっしょにしようとしてくれるともだちがいます。	5	4	3	2	1
8 たいいくのじかん、せんせいから うんどうのじょうずな みほんとして、よくえられます。	5	4	3	2	1
9 いっしょにうんどうするとともだちがいます。（やすみじかんなど）	5	4	3	2	1
10 うんどうが とくいなほうです。	5	4	3	2	1
11 すこしむずかしいうんどうでも、がんばれば できるとおもいます。	5	4	3	2	1
12 できないうんどうでも、あきらめないでれんしゅうすれば できるようになるとおもいます。	5	4	3	2	1

資料2-① 言葉がけ「経験得点」「期待得点」調査用紙（仲間から）

たいいくのじかんのことをおもいだして かいてください。

〔①～③の中から1つえらんで、○をつけてください。〕

1

じぶんで「うまかった」とおもったとき、おなじチームのなかまから「ナイス!」「うまい!」「すごい!」などの ことばを いわれますか?

- ①よくいわれる ②たまにいわれる ③いわれない

では、いわれたいですか?

- ①すごくいわれたい ②すこしいわれたい ③いわれたくない



2

じぶんで「しっぱいした」とおもったとき、おなじチームのなかまから「どんまい!」「おいしい!」「きにしないで!」などの ことばをいわれますか?

- ①よくいわれる ②たまにいわれる ③いわれない

では、いわれたいですか?

- ①すごくいわれたい ②すこしいわれたい ③いわれたくない



3

じぶんでは「うまかった」とおもっていないときでも、あなたのプレーのよさやうまくなったところをみつけてもらい、おなじチームのなかまから「そうそう!」「うまくなったよ!」「いまのよかったよ!」などの ことばをいわれますか?

- ①よくいわれる ②たまにいわれる ③いわれない

では、いわれたいですか?

- ①すごくいわれたい ②すこしいわれたい ③いわれたくない



4

どのようにうごいたり（なげたり、けったり）すればいいか、おなじチームのなかまからアドバイスのことばをいわれますか?

- ①よくいわれる ②たまにいわれる ③いわれない

では、いわれたいですか?

- ①すごくいわれたい ②すこしいわれたい ③いわれたくない



資料 2-② 言葉かけ「経験得点」「期待得点」調査用紙（先生から）



こんども、ボールゲームのしあいやれんしゅうのことをおもい出して、かいてください。しつもんはほとんどおなじですが、こんどは、いわれるあいてが「なかま」ではなく、「せんせい」にかわります。

1

じぶんで「うまかった」とおもったとき、せんせいから

「ナイス!」「うまい!」「すごい!」などの ことばをいわれますか?

- ①よくいわれる ②たまにいわれる ③いわれない

では、いわれたいですか?

- ①すごくいわれたい ②すこしいわれたい ③いわれたくない



2

じぶんで「しっぱいした」とおもったとき、せんせいから「どんまい!」「おいしい!」「きにしないで!」などのことばをいわれますか?

- ①よくいわれる ②たまにいわれる ③いわれない

では、いわれたいですか?

- ①すごくいわれたい ②すこしいわれたい ③いわれたくない



3

じぶんでは「うまかった」とおもっていないときでも、あなたのプレーのよさやうまくなったところをみつけてもらい、「そうそう!」「うまくなったよ!」「いまのよかったよ!」などの ことばをいわれますか?

- ①よくいわれる ②たまにいわれる ③いわれない

では、いわれたいですか?

- ①すごくいわれたい ②すこしいわれたい ③いわれたくない



4

どのようにうごいたり（なげたり、けったり）すればいいか、せんせいからアドバイス のことばをいわれますか?

- ①よくいわれる ②たまにいわれる ③いわれない

では、いわれたいですか?

- ①すごくいわれたい ②すこしいわれたい ③いわれたくない



